

『ある映画を見て』

10年ほど前のある夏の日、木古内から函館方面へ向かって車を走らせていたときのことで。その日は素晴らしい晴天で、海沿いの道路からは、函館山がくっきりと眺めることができ、空には雲ひとつない日でした。車を進めるうちに1台のトラックとその前後に数台の車がゆっくりと列をなして走っている一団に追いつきました。それを追い越す際に助手席の妻が何かを撮影していることに気づきました。トラックの荷台には1台のバイクが固定され、そのバイクに俳優の豊川悦司さんと女の子が二人乗りの形でまたがっていて、それを撮影しているようでした。妻とは何の映画を撮っているんだろうねということで、その後、特に気にもしていなかったのですが、昨年それが「私と犬の10の約束」という映画だったということがわかりました。

その映画の内容について簡単にお知らせします。

主人公の女の子の母親が入院したときに、主人公は犬を飼うことになります。そのとき、母親から犬を飼うときの10の約束を覚えてもらいます。

- ①私の話をがまん強く聞いてくださいね。
- ②私を信じて 私はいつもあなたの味方です。
- ③私とたくさん遊んで。
- ④私にも心があることを忘れないで。
- ⑤ケンカは やめようね。
- ⑥言うことを聞かないときは理由があります。
- ⑦あなたには学校もあるし友達もいるよね でも私にはあなたしかいません。
- ⑧私が年をとっても仲良くしてください。
- ⑨私は10年くらいしか生きられません。だから一緒にいる時間を大切にしようね。
- ⑩あなたと過ごした時間を忘れません。私が死ぬとき お願いします。そばにいてね。

その後、母親は病気で亡くなり、その悲しみを乗り越えて、犬と一緒に成長していく主人公の様子が描かれています。

はじめはかわいい子犬に夢中になり、10の約束を守っていた主人公ですが、24歳になり、仕事や恋愛で忙しくなり、「犬がいると、旅行にも行けない」などと、犬に冷たく

当たるようになります。

しかし、久しぶりに犬を抱きしめたとき、犬の体が小さく、軽くなったことに気づいてこの約束を思い出し、犬と一緒にいられる時間がもう残り少なくなっていることに驚くのです。

主人公は犬が亡くなる時、この約束を守れていたかどうか思い出します。そして、もっと大切にしていればよかったと後悔します。

この話のように、私たちは一緒に長い間生活していると、その状況が永遠に続くように錯覚してしまいます。しかし、そのようなことはありえないことで、必ず終わりはやってきます。それは、犬だけではなく、人の場合でも同じです。

どんなに大切な人とも、いつかは別れるときが必ずきます。今の状況を当たり前と思わずに、自分を支えてくれている人やものに常日頃から感謝する気持ちを持たなくてはと改めて考えさせられました。

この映画を知り、はじめは、あのときのロケがどのように使われているのかという興味にかられて見たのですが、その内容に感銘を受けるところがあったので、ここに紹介しました。